



市大生活の魅力に迫る ～教えて! 市大生の生活～

市大で学ぶ学生は約2,000人。同じ数だけキャンパスライフの過ごし方があります。学び、課外活動など、充実した学生生活を送る市大生の姿を紹介します。

ドミニカの風に吹かれて

国際学部国際学科4年 大塚 和美

私は、3年生後期に本学のプログラムを利用して、広島東洋カープドミニカ共和国野球アカデミーにて、半年間のインターンシップを行いました。現地では、従業員や選手と共に生活を送りながら、従業員へのスペイン語の識字教育、大学を対象とした学歴に関する調査等、さまざまな経験をさせていただきました。現地の習慣や文化等を通し、本学で学んできたことを、また新たな視点から認識できるようになったと思います。

市大には、各々の興味関心、その変化に対応できる柔軟なカリキュラムや、さまざまな機会が用意されています。自分次第で、いかようにも進めていくことが可能です。私自身、この経験がひとつの糧となり、さらなる挑戦を続けています。ここでの出会いとは、学問そのものや教授、先輩や仲間であり、それは学内にとどまりません。学生自身が選び、学び、深めたいける、多角的な視点を有したカリキュラムで、最高の大学生活を送ることができます。



従業員へ識字教育をする大塚さん

風変わりなサークルで

情報科学部知能工学科3年 石黒 健司

私は1年生からTable Game研究会に所属し、昨年から部長を務めています。テーブルゲームとは、囲碁や将棋、モノポリやウノなどのカードゲームを指し、私たちの研究会では、麻雀、カタン、マジック:ザ:ギャザリングなどを主な対象競技とし、各種大会に参加しています。

これらの競技の醍醐味は、TVゲームと違って常に対戦相手が目の前にいて、相手の表情や仕草、発言から心理を読み取ってゲームを進めていくところにあります。

私はテーブルゲームを通して、生活のさまざまな場面で冷静かつ戦略的に最適な選択技を選ぶことができるようになったと自負しています。また、リーダーシップを発揮して32名の部員をまとめると同時に、他大学との交流試合における連絡や調整を通じて人脈を広げ、広い視野を得ることもできました。

市大には、多種多様な部活動、サークル活動があります。私の場合は、Table Game研究会で楽しく学びながら充実した学生生活を送っています。



サークルの仲間と

熱中していくこと

芸術学部デザイン工芸学科4年 梅田 綾香

芸術学部デザイン工芸学科では、2年生の時に各専門分野に分かれます。現在私は染織造形を専攻していますが、最初は、初めての技法や課題でうまくできませんでした。しかし、とても新鮮で、もう一回やればできるかもしれないという思いから、染織造形にどんどのめりこんでいきました。そして今では、日々、「ろう染め」などの染めの技法を用いて、創作活動をしています。課題を通して技法を学んだだけでやり方を知った程度なので、試行錯誤を重ねてこれからも精進していきたいと思っています。

また、芸術学部は分野ごとに特色が違い、さらにサークルに所属している人や個人で活動をする人など、人それぞれ夢中になって取り組んでいることがあるので、刺激にもなり面白いです。自分が専攻する分野だけでなく、講義で他の分野を学べたり、語学研修へ行けたりと、さまざまなことを経験でき今につながっています。このように、市大の魅力は、夢中になれることに取り組める環境や機会があることです。興味のそそられるものに触れる機会はたくさんあるので、時間が足りないくらい熱中できるものを見つけられると思います。



現在制作中の作品



現地の大学でのインタビュー調査にて



サークル活動に真剣に取り組む石黒さん



色を作って試し書きをする梅田さん

市大を志望する皆さんへ ～在学生からのメッセージ～

在学生から受験生の皆さんへ、自らの体験や心構えなどを交えた熱いメッセージが届きました。がんばれ、受験生!

幅広くチャレンジできる国際学部で見つけよう

国際学部国際学科1年 久保 春香



「国際学部」というと、どのようなことを思い浮かべますか?一般的には、英語ばかり学んでいると思う人が多いかもしれませんが、広島市立大学の国際学部で学べるのは、英語だけではないのです。国際政治、経済、公共政策、多文化共生など、幅広く学ぶことができます。また、世界平和の実現に向けた取り組みや海外ボランティアなどの国際的な活動から、一見「国際」というキーワードとは関係ないような町おこしや商品開発まで、いろんなことにチャレンジできる環境があります。もちろん、英語や第二外国語もしっかり学ぶことができ、留学制度も充実しています。つまり、「ヤル気次第」で何でもすることができるのです。

今、皆さんは大学を選ぶ上で、自分の将来のことを考えているのではないのでしょうか。しかし、考えても自分が将来何をしたいか分からず、悩んでいる方も多いと思います。私もその一人でした。そのような方に、国際学部はオススメです。最初に書いた通り、幅広くさまざまな学習や活動ができるので、その中で自分の好きなこと、やりたいことを見つけることができます。今はまだ何がしたいのか見つからないなくても、安心してください。ぜひこの国際学部で見つけていきましょう。応援しています。



時間は有限でも質は自分次第で高められる

情報科学部1年 村田 崇之



私の通っていた広島国泰寺高校は部活に熱心であり、サッカー部を引退し勉強だけに集中し始めたのは3年生の10月からでした。

受験勉強は自分自身との戦いでした。とにかく時間がなかった私は第一に勉強の質を大切にしました。短時間でも長時間でも勉強をする時はやり終えるまで集中し続けるということです。勉強時間にとらわれている受験生は多いはずですが、「学力」=「勉強の質」×「勉強時間」であり、この2項目のどちらをも高める必要があります。時間は有限ですが、勉強の質は自分次第でいくらでも高めることができるのです。

「努力は必ず報われるとは限らん。でも努力なしでは何も始らん!」これは私の高校時代の先生の言葉です。「努力なしで成功する者はいない、成功した者は皆努力している」と逆算する考えに、がぜん私のやる気が増しました。

私が広島市立大学で所属しているFC海人というサッカーサークルは、高校時代に劣らないくらいサッカーにも遊びにも熱く、本当に楽しいものです。大学で楽しむ将来の自分のために頑張ってください。



思い悩むということは向上心がある証拠

芸術学部美術学科1年 岡本 実佳枝



実技対策で私がお薦めしたいことは、一度だけでよいので実技試験の制限時間にとらわれず、自分が納得できるまで描き続けてみることです。そうすることによって自分自身の本当の力を確認することができます。必ず、今後の実技対策に生きてくると思います。

そして、何か思い悩むことがあれば、それは向上心がある証拠です。私は作品を制作する上で、向上心を持ち続けるように心がけています。常に高みに向かって努力し続けることは、必然的に人を成長させるからです。見切りをつけたり、あきらめたりしないでください。継続は力になります。画力に限界はありません。描けば描くほど上達するはずですよ。

また、技術に加えて、「心のある作品を創ること」も大切だと思っています。普段の生活で思っていることが顔に出るというように、絵筆での表現にも自然と思っていることが現れるはずですよ。心の込もった作品は、きっと他人を感動させることができると思います。

皆さんも、向上心を持ち、自分にしか表現できない作品スタイルを築いてください。私も自分を磨きながら、制作に励んでいきます。



〈表紙作品〉
2014年度 芸術学部デザイン工芸学科 卒業
石井 智弥
「OLOGY」(立体造形) (H1650×W1100×D186mm)
2014年度 卒業制作
芸術資料館買上作品

3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

丁寧
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL:082-830-1500(代) FAX:082-830-1656
<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

